

Title	夫木集緊要橋守部自筆稿本
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	1978
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.15上 (1978.) ,p.[3]- 220
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	目次のタイトル: 夫木集緊要橋守部自筆稿本巻上中二冊
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-00000151-0003

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

*注記・・論文中の写真について転載する場合は斯道文庫にお問い合わせ下さい。

夫木集緊要 橘守部自筆稿本

夫木集

上

厚 不

春雨

春雨の音は心なほ春の
夢をよめるやうな
やさしい音だ

花

花は春の心なほ
夢をよめるやうな
やさしい花だ

日

日は春の心なほ
夢をよめるやうな
やさしい日だ

春野

春野の心なほ
夢をよめるやうな
やさしい野だ

日

日は春の心なほ
夢をよめるやうな
やさしい日だ

春雑

春雑の心なほ
夢をよめるやうな
やさしい雑だ

雪雀

雪雀の心なほ
夢をよめるやうな
やさしい雀だ

山吹

山吹の心なほ
夢をよめるやうな
やさしい吹だ

柳笛

柳笛の心なほ
夢をよめるやうな
やさしい笛だ

草

草の心なほ
夢をよめるやうな
やさしい草だ

花

花の心なほ
夢をよめるやうな
やさしい花だ

柳

柳の心なほ
夢をよめるやうな
やさしい柳だ

日

日は春の心なほ
夢をよめるやうな
やさしい日だ

春

春の心なほ
夢をよめるやうな
やさしい春だ

*
 先は青丘と考ふるべし
 其の凡庸なるを御り
 未だと考ふるべし
 の耳取と云ふは其の

これに考ふる思ひは、詞の、日、俗、

は、此、集、中、の、字、音、俗、言、と、嫌、

又、俳、諧、體、を、奇、と、し、誰、と、

舉、す、偶、々、と、撰、ひ、て、其、中、に、

其、傳、を、其、傳、を、其、傳、を、其、傳、

一、朱、と、し、如、此、著、し、其、

句、と、し、の、

一、藍、と、し、如、此、著、し、其、

と、し、目、を、其、の、

一、藍、と、し、如、此、著、し、其、

の、

一、植、と、し、如、此、著、し、其、

の、此、等、の、詞、と、し、其、奇、

取、捨、ち、

打すりのそり... 昨とまを... 妙きも... 〇

〇 九右の世... 用るハ只... 耳眼とく... 〇

一 朱を〇〇〇〇〇 如此著し... 右摠ての詞と... 他傍例... 〇

一 墨を〇〇〇〇 如此著し... 中古の人... 又... 〇

〇 此等の... 以て... 耳眼... 其詞の... 〇

〇 耳眼とく... 依て... 〇

〇 彼... 依て... 〇

〇 此... 依て... 〇

〇 次第... 輯... 〇

〇 老... 〇

夫木集緊要卷一

楠守部撰

○上威内三卷

寛元元年上帖然 卷五日

* 藤原光俊朝臣

ふねをてぬとのをはうと考もてあふりぬ

○元日

寛喜元年女御入内山内京華人家元日 光明峰寺入道攝政

はつ老のちれぬふまに松ふまてふのふまて

千五百番奇合建仁元年

* 野宮左大臣

九言のふりてふりてふりてふりてふりて

○立春

千五百番奇合

* 山中仙言定家

もろのふりてふりてふりてふりてふりて

久安百首

* 藤原実隆朝臣

ふりてふりてふりてふりてふりてふりて

後場以院 国白道長公女孺子、
山家集
門のふりてふりてふりてふりて
てふりてふりてふりてふりて

少のふりてふりてふりてふりて
仁徳紀六十二年
江次第卷一、松葉卷一、二、三

書院入道二品親王家五十首 * 入道二品親王

あまのたれあはれにやうてくも春のよめぬふりやふしづらふ

建長八年夜百首奇念 * 〇後九條内大臣

おさうてかきふりうけら海にをされお園とまきまふり

治承二年在臣家百首主者 * 皇太后宮大夫俊成

おののけいのあはれとゆきはたふぬあはれとあはれとあはれ

弘安元年百首 * 信印之圖

ふふふのうらふらふのあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ

卷奇中 * 清原深養父

かきものたおもひゆめあゆりきんは平海にまきまふり

家集 山家年春 * 藤原清輔朝臣

小節られ春のきくもてまきまふりのあはれとあはれとあはれ

永久四年百首 卷日 * 藤原忠房

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ

支今春上 谷風とくもい出のい

後宇多 神代紀玉垣内津國

○苦菜

同

五林門院母後

ふくのさめしきうらさしほくはあまのまへにわが心をしづ

百首行幸

順徳院

さちのあのをちゆく多入いとくふれ袖もあふふちうれつじ

お集存凡日月茶ころれつむる

平五盛

あーあれしきうらさしほくはあまのまへにわが心をしづ

あまのまへにわが心をしづ

信貴別荘

はらわたのさめしきうらさしほくはあまのまへにわが心をしづ

曰

法中之園

うらさしほくはあまのまへにわが心をしづ

建長八年百首行幸

厚九條内大臣

あまのまへにわが心をしづ

弘安三年新態野社百首

安嘉門院四條

考まていふれうれふてさういふるまてまてまてまてまて

貞永元年洞院攝政家百首 藤原洞院但馬

あやまはしむのそりあふふまてまてまてまてまて

○萬

正治二年百首 小竹屋

うまひまの谷れふまのいひりてすいひりてすいひりてす

千五百首奇合 中細言定家

らまのの萬うまひりてすいひりてすいひりてすいひりてす

南北百首奇合 後京極攝政

はのりてすいひりてすいひりてすいひりてすいひりてす

建仁元年若若百首奇合 曰

らまのの萬うまひりてすいひりてすいひりてすいひりてす

百首奇 善徳和吉

らまのの萬うまひりてすいひりてすいひりてすいひりてす

*

古今春上 二五五

まのりてすいひりてすいひりてすいひりてすいひりてす

拾遺春 一七二

まのりてすいひりてすいひりてすいひりてすいひりてす

以上末巻一

支今秋下 紀略を
ゆりやちんくさほのりく凡の
けりやちんくさほのりく凡の
けりやちんくさほのりく凡の

支今老 紀略
さうれいあしんくさほのりく
けりやちんくさほのりく

支今春上
さうれいあしんくさほのりく
けりやちんくさほのりく

小野宮教七十首 賀正

大中臣能宣朝臣

※
あけのぼるけりやちんくさほのりく
けりやちんくさほのりく

※ 春奇中書

※ 鎌倉右大臣

※
あけのぼるけりやちんくさほのりく
けりやちんくさほのりく

※ 光聖院入道二品親王五十首 春中書

※ 從二位 支隆

※
あけのぼるけりやちんくさほのりく
けりやちんくさほのりく

貞應三年 百首

※ 民部卿 為家

※
あけのぼるけりやちんくさほのりく
けりやちんくさほのりく

奇苑抄 教皇

※ 入道 守

※
あけのぼるけりやちんくさほのりく
けりやちんくさほのりく

老古五十首 奇合

※ 日守 道隆

※
あけのぼるけりやちんくさほのりく
けりやちんくさほのりく

○霞

建治三年 名所百首 大庭浦

※ 明徳院

大... ..*

千五百首奇各

年三子

ほ... ..*

大神宮万首佛奇

後鳥羽院

ま... ..*

貞永二年万首奇

洞院攝政

巻... ..*

平宗定... ..十首奇霞

参議為相

ま... ..*

正徳五年三嶋社十首奇海邊筑

曰

く... ..*

霞の心

他阿人

ま... ..*

安集 朝堂旅客

法補新元

乾元元年松洞寺春夕

若中納言為兼

栂のふくむかきふくむかきふくむかき栂のふくむかきふくむかき

○栂

百首出寄

後鳥羽院

みづのほとけのこけらけのこけらけのこけらけのこけらけのこけらけ

東之塔として母ありて浄堂へつらして岩柳を

伊勢之補

あまのりんごのりんごのりんごのりんごのりんごのりんごのりんご

香を改入道に又松をなみす

香經

いづれかきやいづれかきやいづれかきやいづれかきやいづれかきや

光基院入道二品親王女中守孝經并入道太政大臣

あまのりんごのりんごのりんごのりんごのりんごのりんごのりんご

建保三年名所百首

正三位兼家

ふくむかきふくむかきふくむかきふくむかきふくむかきふくむかき

雨

ふくらす

しほしほの袖のふらふらしてはなをのほかにふらふらしてはなをのほかに

※※※

※ 曰

けふの朝のふらふらしてはなをのほかにふらふらしてはなをのほかに

※ 建長八年万首开会

※ 後九條ゆたか

いよゝみのふらふらしてはなをのほかにふらふらしてはなをのほかに

※ 光孝院入道二宮朝子おのり手秘卷の名家

たの衣あはれてはなをのほかにふらふらしてはなをのほかに

※ 文治六年五社百首

※ 俊成

けふの朝のふらふらしてはなをのほかにふらふらしてはなをのほかに

○春物

堀河院少時百首

中納言國信

あつきのとらふらふらしてはなをのほかにふらふらしてはなをのほかに

文應元年七社百首

乃衣

宗地玉故事也事文類聚四十五
二出乙拾葉卷二十三丁六丁引
以上本卷三

けしきすくらの後ゆゑもむねを好む人らも
あはれもほみ巻きうへのりうつらあめ
○花

○燕

鳥百首中燕

為相

建保四年百首

家隆

あはれもほみ巻きうへのりうつらあめ
家集

家集

あお

拾遺雜考
考しむるの多き事には
くまひはせむらうてん

あはれもほみ巻きうへのりうつらあめ
細院攝政家百首花

細院攝政家百首花

從三位乾宗

あはれもほみ巻きうへのりうつらあめ
山邊右大臣

山邊右大臣

鎌倉右大臣

あはれもほみ巻きうへのりうつらあめ
治承二年右大臣家百首

治承二年右大臣家百首

俊集

ふのこゝろをわらへんあまのりすのふたごころをわらへん

日吉社百首

延徳和名

ふのこゝろのまをわらへんあまのりすのふたごころをわらへん

右原を居すらんる百首奇

は眼を融

あまのりすのふたごころをわらへんあまのりすのふたごころをわらへん

家集古来奇合山中花

家隆

あまのりすのふたごころをわらへんあまのりすのふたごころをわらへん

河原花

平泰時

あまのりすのふたごころをわらへんあまのりすのふたごころをわらへん

花月百首

定家

あまのりすのふたごころをわらへんあまのりすのふたごころをわらへん

千五百首奇合

西園寺入道太政大臣

あまのりすのふたごころをわらへんあまのりすのふたごころをわらへん

名所奇中

参議の相

拾葉卷二十八丁ウ註出
宇都佐隆マノ風ありりく
の文を不長し

あゝのひびき〜

花奇中

西行

れ〜

春山奇中

後多の院

あ〜

百首奇名可

後徳大寺左大臣

大井河〜

花月百首

後京極攝政

れ〜

重家卿奇合 奇苑抄

法橋形照

い〜

新玉奇苑抄

清輔

か〜

あま 花奇

あま

うらみそとらあしと考ぬのしづかきさきしづかき

お舞庭よふ古まきふ

及丸除田大臣

ふけのそしむりくたさしむたてくもむくをたさふ前

○遅日

古き若き合遅日

後末振橋政

秋しづ月給ふあうまふしづきくまもりのしづ

○帰雁

百首ゆき

明徳院

うらみそとらあしと考ぬのしづかきさきしづかき

久安百首

花園左大臣家山大進

ふけのそしむりくたさしむたてくもむくをたさふ前

保延二年青方お成りまふ人霞野原秋

右京非親

ふけのそしむりくたさしむたてくもむくをたさふ前

百首

後九條ゆき臣

しんあまのまゝにまゐりておぼしきことなり

天正四年潤三月那桐守家守令 為家重定

ものやれけりまゝにまゐりておぼしきことなり

○藤

弘長二年任者 為家

すゝめはけりまゝにまゐりておぼしきことなり

右大將定國の教守也 忠孝

しんあまのまゝにまゐりておぼしきことなり

宝治二年百子 松本友 長尾内大臣

あゝあまのまゝにまゐりておぼしきことなり

家兼孝孝 後九條内大臣

あゝあまのまゝにまゐりておぼしきことなり

名守守中 為相

あゝあまのまゝにまゐりておぼしきことなり


~~~~~\*~~~~~

おまへしな

小弁

~~~~~\*~~~~~

おまへしな

神祇伯孫仲

~~~~~\*~~~~~

おまへしな

権中御七き方

~~~~~\*~~~~~

おまへしな

右衛門

~~~~~\*~~~~~

おまへしな

都方門院五蔵

~~~~~\*~~~~~

おまへしな

右衛門

~~~~~\*~~~~~

おまへしな

右衛門

新千三一分務  
浦ろくはゆき  
のすのぞく  
る

今十  
る









まぐらに...  
\*  
...

○首夏

お集り...  
\*

仲正

...  
\*  
...

ふま...  
\*

お寺...  
\*

...  
\*  
...

田尾...  
\*

為家

...  
\*  
...

正法...  
\*

後京...  
\*

...  
\*  
...

左...  
\*

加茂...  
\*

...  
\*  
...

建...  
\*

左...  
\*

...  
\*  
...

拾遺春 忠孝  
けい...  
の...  
ら







Handwritten text at the top right, possibly a title or reference.

Main handwritten line of text on the right side of the page.

Handwritten note below the first line on the right.

好也

Second main handwritten line of text on the right side.

Handwritten note below the second line on the right.

Handwritten note below the second line on the right.

Third main handwritten line of text on the right side.

Handwritten note below the third line on the right.

Handwritten note below the third line on the right.

Fourth main handwritten line of text on the right side.

Handwritten note below the fourth line on the right.

Handwritten note below the fourth line on the right.

Fifth main handwritten line of text on the right side.

Handwritten note below the fifth line on the right.

Handwritten note below the fifth line on the right.

Sixth main handwritten line of text on the right side.

Handwritten note below the sixth line on the right.

Handwritten note below the sixth line on the right.

Seventh main handwritten line of text on the right side.

Handwritten note below the seventh line on the right.

Handwritten note below the seventh line on the right.

Handwritten text at the bottom left, possibly a signature or date.

~~~~~\*~~~~~

六世乳

益道内大臣

~~~~~\*~~~~~

山内門力元

定家

~~~~~\*~~~~~

左中林業

平經

~~~~~\*~~~~~

天仁二年

源朝

~~~~~\*~~~~~

春

以橋

~~~~~\*~~~~~

昭

以橋

~~~~~\*~~~~~

安

以橋

Handwritten cursive text line 1

弘長万石 卯辰

当分入込古時不長

Handwritten cursive text line 2

五石万石

信守

Handwritten cursive text line 3

万石

善好

Handwritten cursive text line 4

何屋四十七石

善好

Handwritten cursive text line 5

八石入込全五石可方卯辰

善好

Handwritten cursive text line 6

弘長二年 岩根堂 萬石

安永門院 四條

Handwritten cursive text line 7

万石 卯辰 続家

山崎 蓮生 作

文法三年百首

文法三年百首

宣文

○神奈

○神奈

文法二年百首

小侍從

日下子

○葵

顔字百首 盧楠白中洲藻草梧桐影底卷几簾

定家

家集

家集

曰

文法五年五社百首葵

文法五年五社百首葵

俊成

俊成

千載雜上 定言
しんざいざつじょう じやうごん
ちんざいざつじょう じやうごん

○五月五日

文治五年 六月 入内侍 藤原 頼朝 入内侍 藤原 頼朝

しんじゆごん じゆんごく ねんげつ ねんげつ ねんげつ ねんげつ ねんげつ ねんげつ

天喜八年 丙の 卯の せし 卯の 辰の 辰の 貫之

てんきはちねん ぼうの うの せし うの しの しの ぬきの

拾遺三十一 丁 丁 証

富平 藤原 頼朝 佐藤 頼朝

とみへら とうげん ねんぢゆう さいとう ねんぢゆう

拾遺三十一 丁 丁 証

千載 藤原 頼朝 藤原 頼朝

ちんざい とうげん ねんぢゆう とうげん ねんぢゆう

康和二年 五月 卯の 辰の 卯の 辰の 院中 宮上 藤原 頼朝

かうわにねん ごごつ うの しの うの しの いんぢゆう みやうじやう とうげん ねんぢゆう

○慈濟

家集 佐藤 頼朝

けあつじゆ さいとう ねんぢゆう

あはれなるはなをみれば
あはれなるはなをみれば

ふたばり

行方

あはれなるはなをみれば
あはれなるはなをみれば

日

あはれなるはな

あはれなるはなをみれば
あはれなるはなをみれば

○橘

百首亭虚橘子低山雨重

道徳

あはれなるはなをみれば
あはれなるはなをみれば

北野社百首亭

後鳥羽院

あはれなるはなをみれば
あはれなるはなをみれば

交集五首中

衣王御衣

あはれなるはなをみれば
あはれなるはなをみれば

十歌百首亭

信長御衣

あはれなるはなをみれば
あはれなるはなをみれば

昌治二年百首

日

家集

西三條の巻

日... * 西三條の巻

文永二年白河殿七書方

* 光俊

ふ... * 光俊

家集

西行上人

ほ... * 西行上人

第... 今曉部云

清輔新在

月... * 清輔新在

あ... 今曉部云

入道前太政大臣

た... * 入道前太政大臣

西... 百書方

道徳

た... * 道徳

三... 和奇

鴨長明

た... * 鴨長明

清くあつてはけしきとまゝに

西行上人

けしきとまゝにけしきとまゝにけしきとまゝに

赤集時考

後教

けしきとまゝにけしきとまゝにけしきとまゝに

あつてはけしきとまゝに

日

けしきとまゝにけしきとまゝにけしきとまゝに

あま津の岡郡と

権太師と實家

あま津の岡郡とあま津の岡郡と

馬と岡郡と

日

あま津の岡郡とあま津の岡郡と

あま津の岡郡と

道法

あま津の岡郡とあま津の岡郡と

建保三年四月八日家下考 在郡と 佐寄

◎
The origin of the name of the town is unknown.

成瀬の地名は不明である。

*
The name of the town is said to be derived from the name of the river.

この地名は川の名に由来するといわれる。

*
The name of the town is said to be derived from the name of the mountain.

この地名は山の名に由来するといわれる。

*
The name of the town is said to be derived from the name of the valley.

この地名は谷の名に由来するといわれる。

*
The name of the town is said to be derived from the name of the field.

○五月

この地名は田の名に由来するといわれる。

*
The name of the town is said to be derived from the name of the forest.

この地名は森の名に由来するといわれる。

*
The name of the town is said to be derived from the name of the stream.


~~~~~\*

正治二年百首

二修夜讀妓

~~~~~

上治五年又新百首照射

修出

~~~~~\*

~~~~~

赤陽門院御歌

~~~~~\*

~~~~~

道徳

~~~~~\*

~~~~~

赤隆

~~~~~\*

~~~~~

光俊

~~~~~\*

~~~~~

~~~~~

古今三 春道列樹

~~~~~


*
... ..
*
...

...

...

... ..
*
...

...

...

... ..
*
...

...

...

... ..
*
...

...

...

... ..
*
...

...

...

... ..
*
...

...

...

... ..
*
...

...

...

あまのついでにふたつにけりてはなすもとのついでに

おまふまふ

ほつ

あまのついでにふたつにけりてはなすもとのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでにふたつにけりてはなすもとのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでにふたつにけりてはなすもとのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでにふたつにけりてはなすもとのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでにふたつにけりてはなすもとのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでにふたつにけりてはなすもとのついでに

あまのついでに

あまのついでに

松葉ニサ下ノ近

あはれなる心にて 小舟のまはるるを ながめたりとて

ゆきまろし

後醍醐

かきしるる心にて 舟のまはるるを ながめたりとて

ゆきまろし

後醍醐

今昔の心にて 舟のまはるるを ながめたりとて

あはれなる心にて 舟のまはるるを ながめたりとて

ふんてん内裏守合巻等五巻

若菜通持氏

あはれなる心にて 舟のまはるるを ながめたりとて

ゆきまろし

後醍醐

あはれなる心にて 舟のまはるるを ながめたりとて

ゆきまろし

後醍醐

あはれなる心にて 舟のまはるるを ながめたりとて

○夏衣

六百奉奇合

後醍醐

あはれなる心にて 舟のまはるるを ながめたりとて

あはれなる心にて 舟のまはるるを ながめたりとて

ふきぬるやうにふくむと[※]しるふのたのむく[※]しるふ[※]

と秋臥

ふき

かたかなり[※]しるふ[※]しるふ[※]しるふ[※]しるふ[※]しるふ[※]

甲子年方旅

日

ふきぬるやうにふくむと[※]しるふのたのむく[※]しるふ[※]

建之元年一白首多幸

日

ふきぬるやうにふくむと[※]しるふのたのむく[※]しるふ[※]

○醒麦

たき

しるふ

ふきぬるやうにふくむと[※]しるふのたのむく[※]しるふ[※]

口

修成

ふきぬるやうにふくむと[※]しるふのたのむく[※]しるふ[※]

ふきぬるやうに

修成

ふきぬるやうにふくむと[※]しるふのたのむく[※]しるふ[※]

夏田の事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり

夏田

千五百五十九年

夏田

夏田の事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり

夏田

千五百五十九年

夏田の事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり

千五百五十九年

夏田

夏田の事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり

千五百五十九年

夏田

夏田の事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり

千五百五十九年

夏田

夏田の事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり

夏田

夏田

一徳の古事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり
一徳の古事記に一浦とありけり

このころはけい後まはる五月もくはるくとるふりていふん

○夕

ちの考すか

有後

夕まはるのふりていふんはるふりていふんはるふりていふん

ちの考すか

後鳥羽院

このころはけい後まはる五月もくはるくとるふりていふん

承久二年甲子

定後

このころはけい後まはる五月もくはるくとるふりていふん

ちの考すか

有後

このころはけい後まはる五月もくはるくとるふりていふん

承久二年丙子

有後

このころはけい後まはる五月もくはるくとるふりていふん

承久二年丁子

有後

このころはけい後まはる五月もくはるくとるふりていふん

まきくさのうらぶらぶら* せせせせ* せせせせ* せせせせ* せせせせ*

まきくさのうらぶらぶら* せせせせ* せせせせ* せせせせ* せせせせ*

文兵百首 予の蒲帆風雨天蟬聲暮終 八条院 予念

まきくさのうらぶらぶら* せせせせ* せせせせ* せせせせ* せせせせ*

あつ門曲之長夜十首 予念 野末多隆 寂道

まきくさのうらぶらぶら* せせせせ* せせせせ* せせせせ* せせせせ*

三途二年百首 池野光

まきくさのうらぶらぶら* せせせせ* せせせせ* せせせせ* せせせせ*

千五百首 予念 寂道

まきくさのうらぶらぶら* せせせせ* せせせせ* せせせせ* せせせせ*

海邊多歌百首 予念 乃相

まきくさのうらぶらぶら* せせせせ* せせせせ* せせせせ* せせせせ*

○茅蜩

和歌成部

ひのけりてはるかにあはれみこころを
*
あはれみこころを

出集三首等志和後

後鳥羽院

しづかにけしよとほのちをこころを
*
しづかにけしよとほのちを

文法五年如女内侍存月

后深草院

あはれみこころを
*
あはれみこころを

天保二年七月右近衛守存月等

号

あはれみこころを
*
あはれみこころを

弘治五年如女内侍存月

号

あはれみこころを
*
あはれみこころを

百首等

安永門院

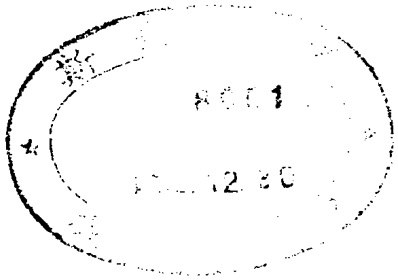
あはれみこころを
*
あはれみこころを

百首等志和後

元二位家隆

あはれみこころを
*
あはれみこころを

一本 漢書(上) 卷之九 卷之十



丁巳二月十日 羽田氏之全

羽田氏藏

羽田氏之全

羽田氏之全

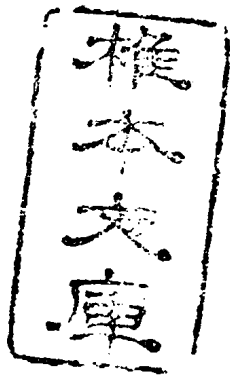
後

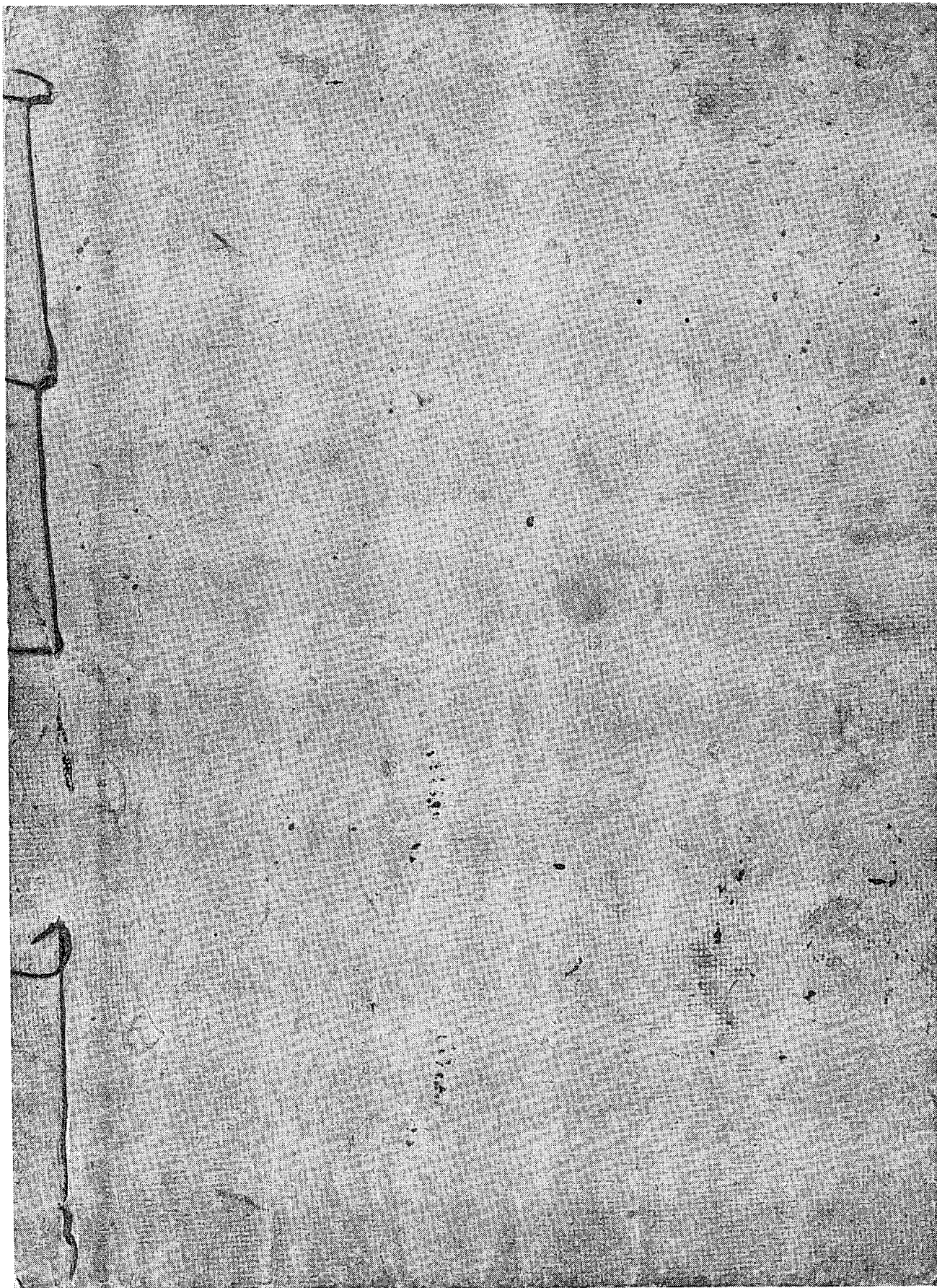
羽田氏之全

羽田氏之全

後

羽田氏之全





天来集


~~~~~\*  
~~~~~\*  
~~~~~\*

連信四年毎々中一

為家

~~~~~\*  
~~~~~\*  
~~~~~\*

洞院孫の貞万子女

女も孫也

~~~~~\*  
~~~~~\*  
~~~~~\*

老甚院の孫万子女

日

~~~~~\*  
~~~~~\*  
~~~~~\*

平内二年万子

寂蓮

~~~~~\*  
~~~~~\*  
~~~~~\*

千代子孫也

信女

~~~~~\*  
~~~~~\*  
~~~~~\*

幼女中一

中一

~~~~~\*  
~~~~~\*  
~~~~~\*

延享四年十二月平内家子孫也

忠孝



日

あまのついでにわがまをさすつねにまをさすつねにわがまをさすつねに

てん

日

あまのついでにわがまをさすつねにまをさすつねにわがまをさすつねに

有夜

日

あまのついでにわがまをさすつねにまをさすつねにわがまをさすつねに

有夜

〇七夕

六百書字合とり奠

長手持改

あまのついでにわがまをさすつねにまをさすつねにわがまをさすつねに

日

あまのついでにわがまをさすつねにまをさすつねにわがまをさすつねに

季経

日

あまのついでにわがまをさすつねにまをさすつねにわがまをさすつねに

有夜

色は雲のかげ

入道若菜の花



Handwritten text in Kuzushiji style, possibly a date or title.

宣統二年正月

宣統輔記

Handwritten text in Kuzushiji style, possibly a date or title.

宣統二年正月

宣統門院冊誌

Handwritten text in Kuzushiji style, possibly a date or title.

宣統二年正月

宣統門院右冊誌

Handwritten text in Kuzushiji style, possibly a date or title.

宣統二年正月

宣統門院左冊誌

Handwritten text in Kuzushiji style, possibly a date or title.

宣統二年正月

宣統

Handwritten text in Kuzushiji style, possibly a date or title.

宣統二年正月

宣統

Handwritten text in Kuzushiji style, possibly a date or title.

宣統二年正月

宣統門院左冊誌

~~~~~\*

お母

お母様

~~~~~\*~~~~~\*~~~~~\*

一字百字

お母

~~~~~\*~~~~~\*~~~~~\*~~~~~\*

昭和二年三月

お母

~~~~~\*~~~~~\*~~~~~\*~~~~~\*

昭和二年七月廿五日 資生堂 鈴木

お母

~~~~~\*~~~~~\*~~~~~\*~~~~~\*

お母

お母様

~~~~~\*~~~~~\*~~~~~\*~~~~~\*

お母

お母

~~~~~\*~~~~~\*~~~~~\*~~~~~\*


あまのついでに... *

承安三年七月左大臣家奇人野地 江野寺入道国白表母後

あまのついでに... *

文治六年五社百首 俊成

あまのついでに... *

文治元年七社百首 為家

あまのついでに... *

百首奇 登蓮法師

あまのついでに... *

三十六人奇 平忠度朝臣

あまのついでに... *

光明寺入道橋政家百首秋五 家隆

あまのついでに... *

家集

旧

三首奇

中務の女し鎌倉

○桂花

建保四年百首奇

光の峰も入道持の

百首奇

家隆

百首奇 桂花

家隆

○秋野

久安百首

俊成

後京極持政

○鹿

百首奇鹿

寂蓮

きりぎりすはのしりもあぬにけりしきりぎりすのせむ

天徳三年八月女房前裁尋令 志賀の心こもるのつげの鹿なく

元真

うきよにゆきや中々きりぎりすのしりあふくもきりぎりすれ

文治六年五社百首奇

俊成

たのしみもさしはしりきりぎりすのしりあふくもきりぎりすれ

四季百首奇

慈鎮

あまのこころのしりあふくもきりぎりすのしりあふくもきりぎりすれ

百首奇

曰

あまのこころのしりあふくもきりぎりすのしりあふくもきりぎりすれ

家果たけりしりあふくもきりぎりすのしりあふくもきりぎりすれ

俊頼


~~~~~\*\*  
~~~~~\*\*

** 山鹿 為相

~~~~~\*\*  
~~~~~\*\*

七百首奇産 権僧云公朝

~~~~~\*\*  
~~~~~\*\*

正治二年百首 書院入道三郎のそ

~~~~~\*\*  
~~~~~\*\*

○鴈

千五百番奇合 長二佐保赤子

~~~~~\*\*  
~~~~~\*\*

** 宝治二年百首初巻 信安

~~~~~\*\*  
~~~~~\*\*

建保二年八月八日言奇合 海邊雁 佐成女

~~~~~\*\*  
~~~~~\*\*


とてふのいづれのよきものぞとて
あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて

六帖歌

信實

秋の田はうらやまのほくろ
ほくろ
ほくろ
ほくろ
ほくろ
ほくろ
ほくろ
ほくろ

曰

光俊

うれはうらやまのほくろ
ほくろ
ほくろ
ほくろ
ほくろ
ほくろ
ほくろ
ほくろ

〇月

三十九人哥合

後徳大寺左大臣

おもしろきことなほ
おもしろきことなほ
おもしろきことなほ
おもしろきことなほ
おもしろきことなほ
おもしろきことなほ
おもしろきことなほ
おもしろきことなほ

家振哥合 山月

後京極持政

あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて

八月十五日前祝

曰

あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて

八月十五夜

貫之

あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて
あはれなる心ぞとて

万代秋下 家

二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十

以上未巻十三

はね入道前関白家寺合

頭仲朝臣

秋の夕暮の光をみれば
あはれなるものぞ
いとほしき心ぞ
おもはれぬ

永万二年重家寺合月

源通能朝臣

秋の夕暮の光をみれば
あはれなるものぞ
いとほしき心ぞ
おもはれぬ

安永二年細九月寺合

杉改

秋の夕暮の光をみれば
あはれなるものぞ
いとほしき心ぞ
おもはれぬ

三在三年内裏中會晚月

前大御言為世

里の夕暮の光をみれば
あはれなるものぞ
いとほしき心ぞ
おもはれぬ

百首竹寺

以法院

夕暮の光をみれば
あはれなるものぞ
いとほしき心ぞ
おもはれぬ

千多末寺合

三位季経

あはれなるものぞ
いとほしき心ぞ
おもはれぬ

日

小侍後

あはれなるものぞ
いとほしき心ぞ
おもはれぬ

※ 建仁元年十二月寄谷 出家秋月 寂蓮

山のもを新の移ふすまをよて家よりしるもりあけのぼる

※ 文永七年毎口一首中 出家

月の中を遠くも秋かきくもあけのぼるもあけのぼるけりけ

或詠マ詠と夜十五夜中會 前參議雅有

すももをしりもかりもあけのぼる月のみもつむいなるけり雪

※ 家系 家隆

冬月のなりあけりけなるもけりさきけりくもなる月丸

文治五年百首 定家

月ももよものおちて平ももてしるもあけのぼるけりけり

喜多院入道二品親王家五十首 前大内言隆房

しるももあけのぼるけりけりけりけりけりけりけりけり

※ 四季百首月 家隆

あけのぼるけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

弘安三年五月太神宮社拜合

元祐法師

~~~~~

千五百首奇々

茅三仲子

~~~~~

弘安元年百首

後九條内大臣

~~~~~

家集

家隆

~~~~~

○駒迎

堀川院少時百首駒迎

権中納言師時

~~~~~

賀茂社百首

益徳

~~~~~

百首夜半駒迎

寂蓮

れやうとてうらなれよのさなれとてうらなれとてむねむねのむね

※ 永延二年十月宗資入都下家守冬 松下秋凡 有原茂次

木のまふれふれのかげのむねのむねのむねのむねのむねのむね

六所歌 有友

むねのむねのむねのむねのむねのむねのむねのむねのむねのむね

六所馬守冬 意秋

まひまひのむねのむねのむねのむねのむねのむねのむねのむね

曰 ※ 隆信

まひまひのむねのむねのむねのむねのむねのむねのむねのむね

○野分

※※ 西洞院士守 長手越崎奴

まひまひのむねのむねのむねのむねのむねのむねのむねのむね

六百番舞合 曰

まひまひのむねのむねのむねのむねのむねのむねのむねのむね

嘉禄二年百首

権僧正公朝

あきふりさけしはとさかくみかきしききもいふぬけりふりた

○秋雨

六右衛門守会秋留

後京極藤政

あきふりさけしはとさかくみかきしききもいふぬけりふりた

六修胤

多家

あきふりさけしはとさかくみかきしききもいふぬけりふりた

三后二年百首

后鳥羽院

あきふりさけしはとさかくみかきしききもいふぬけりふりた

毎日百首

多家

あきふりさけしはとさかくみかきしききもいふぬけりふりた

為相

あきふりさけしはとさかくみかきしききもいふぬけりふりた

式抄中

定家

まはゆるきもちき月よはるまはるきわのあはれ

○露

とちれ

信実

あのをしし袖つくふらぬらまはるきわのあはれ

※ 宝治二年百首歌

※ 曰

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

徳因に肝

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

※ 三治六年百首

※ 前大御上良

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

千首奇

※ 志友

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

秋奇中

※ 乃お

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

六万奇太

有家

新下... * ... * ...

建保三年

從二位

... * ... * ...

新奇中

為兼

... * ... * ...

○秋夕

古抄

長生

... * ... * ...

○虫

西園

後京極

... * ... * ...

* 新集

曰

... * ... * ...

弘長元年百首

信實

言ふとてはしむるもあはれなるはなはた
* けしきもよきはなはた

建保二年秋十月奇太秋生

雅経

日くけふはなはた
* のはなはたはなはた

日くけふはなはた

俊成女

あはれなるはなはた
* のはなはたはなはた

十五万鳥奇太

後赤松奇太

あはれなるはなはた
* のはなはたはなはた

惟貞奇太

存元奇太

あはれなるはなはた
* のはなはたはなはた

日

繁礼

あはれなるはなはた
* のはなはたはなはた

あはれ

存元奇太

あはれなるはなはた
* のはなはたはなはた

※ 永文四年百首抄中

忠房

~~~~~\*~~~~~

家集 月夜虫

西行

~~~~~\*~~~~~

~~~~~

慶政上人

~~~~~\*~~~~~

嘉元二年成詔親王家續千首原虫

為相

~~~~~\*~~~~~

万首奇虫又十首中

為顯

~~~~~\*~~~~~

上北歌

為兼

~~~~~\*~~~~~

家集中

殷富門院太輔











~~~~~\*~~~~~

家集 石室の詩

*舞へ

~~~~~\*~~~~~

天慶八年 内裏の舞

日

~~~~~\*~~~~~

天曆七年十月内裏の舞 今とす

中勢

~~~~~\*~~~~~

家集 女侍の詩

源道海

~~~~~\*~~~~~

家集 仙家詩

如覺法師

~~~~~\*~~~~~

家集 百首 水岸菊

仲正

~~~~~\*~~~~~


家集九月十三夜

西行

こゝろいこゝろいこゝろいこゝろいこゝろいこゝろいこゝろいこゝろいこゝろいこゝろいこゝろい

長承三年九月十三日 彰輔卿を念月 有る之兼

さ〜〜い

お島五行ゆき中黄

後京極持政

あ〜〜い

九十九首も奇中

為實

や〜〜い

* 日

* 日

あ〜〜い

あ〜〜い

あ〜〜い

あ〜〜い

志景院入道二京親王女御中 孫弟白 範宗

あまのついでにわがしんじゆに
あまのついでにわがしんじゆに
あまのついでにわがしんじゆに

ふ久二年太神宮社直守令も

あまのついでにわがしんじゆに
あまのついでにわがしんじゆに
あまのついでにわがしんじゆに

四年五月九日
仲實

あまのついでにわがしんじゆに
あまのついでにわがしんじゆに
あまのついでにわがしんじゆに

山守令と勢も
権太師實家

あまのついでにわがしんじゆに
あまのついでにわがしんじゆに
あまのついでにわがしんじゆに

建保四年一十月
定家

あまのついでにわがしんじゆに
あまのついでにわがしんじゆに
あまのついでにわがしんじゆに

四年五月一日
為家

あまのついでにわがしんじゆに
あまのついでにわがしんじゆに
あまのついでにわがしんじゆに

六帖
信實

あまのついでにわがしんじゆに
あまのついでにわがしんじゆに
あまのついでにわがしんじゆに

奇林苑令旨
清輔

※ かしらみぢの干草のほろほろと鳴るはるかに
しらぬはるかにしらぬはるかにしらぬはるかに

※ 栲樹書と

※ 隆祐朝衣

※ かしらみぢの干草のほろほろと鳴るはるかに
しらぬはるかにしらぬはるかにしらぬはるかに

※ 家集

※ 日

※ かしらみぢの干草のほろほろと鳴るはるかに
しらぬはるかにしらぬはるかにしらぬはるかに

○ 秋山

三治二年仍洞十芳寺金山庵

定家

※ かしらみぢの干草のほろほろと鳴るはるかに
しらぬはるかにしらぬはるかにしらぬはるかに

百芳寺金山権兵衛

定家

※ かしらみぢの干草のほろほろと鳴るはるかに
しらぬはるかにしらぬはるかにしらぬはるかに

秋山中

孝磐井太政大臣

※ かしらみぢの干草のほろほろと鳴るはるかに
しらぬはるかにしらぬはるかにしらぬはるかに

※ 康元二年毎百一芳中秋奇

為家

※ かしらみぢの干草のほろほろと鳴るはるかに
しらぬはるかにしらぬはるかにしらぬはるかに

心なみのまろりあゆみむしんりてきしぐもしんりりれ

○檀

結奇中

おろろこしんりあゆみむしんりてきしぐもしんりりれ

弘安三年万々

和泉左部

心なみのまろりあゆみむしんりてきしぐもしんりりれ

○桐

建長四年五月万々 結奇

為家

心なみのまろりあゆみむしんりてきしぐもしんりりれ

○紅葉

田原百々贈奇

後九條ゆき臣

心なみのまろりあゆみむしんりてきしぐもしんりりれ

廿六人奇合

為氏

心なみのまろりあゆみむしんりてきしぐもしんりりれ

源頼行

りくくちもみちをこころをいふにせ

文永七年十月三日 紅葉

後醍醐天皇

日よるるゆふのしらべをいふにせ

老甚能教家のみきり夕紅葉

範宗

しれつちもみちをこころをいふにせ

名号中 高僧山 紅葉

為相

よるるゆふのしらべをいふにせ

弘治二年十一月

出所不明

りくくちもみちをこころをいふにせ

六十五願寺 秋風吹草立催返白眉覺定念似舊哉

定友

りくくちもみちをこころをいふにせ

仁安三年冬良平令

海祐氏

~~~~~\*~~~~~\*~~~~~\*

村上市時勝五紅葉合

元輔

~~~~~\*~~~~~\*~~~~~\*

~~~~~\*

堀河右大臣

~~~~~\*~~~~~\*~~~~~\*

仁安二年八月徑整三赤舟合紅葉

形詔書抄輔

~~~~~\*~~~~~\*~~~~~\*

~~~~~\*

~~~~~\*

~~~~~\*~~~~~\*~~~~~\*

~~~~~\*~~~~~\*~~~~~\*

日

俊盛法師

~~~~~\*~~~~~\*~~~~~\*

~~~~~\*

家隆

~~~~~\*~~~~~\*~~~~~\*

家集紅葉

俊頼

○暮秋

建保四年百有

之秋

※
ゆきふりよりのあけのほろほろとよき秋の

成抄中

※
秋のゆるるそとくさくさして神のまじりゆく

百有奇本巻秋

百有奇本巻

※
きりの月とあつむくはらうやれは秋のしらけゆく

日

月

※
秋のゆるるそとくさくさして神のまじりゆく

百有二年百有

巻秋

※
ゆきの秋とあつむくはらうやれは秋のしらけゆく

百有奇

巻秋

※
かきくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

○九月盡

亦集社寺中

連慶法師

あきらかにしめしめとあはれなりけり
秋のくも入るやまのふゆこ

久安百首

隆季

しづかにあはれぬるまはらふ
秋の柳のさゆりのうらみ

百首百首

道徳

あきらかにしめしめとあはれなりけり
秋のくも入るやまのふゆこ

以上夫木卷十五

○初巻

百首百首

順徳院

あきらかにしめしめとあはれなりけり
秋のくも入るやまのふゆこ

賀茂社百首

道徳

あきらかにしめしめとあはれなりけり
秋のくも入るやまのふゆこ

文治六年五社百首

俊成

あきらかにしめしめとあはれなりけり
秋のくも入るやまのふゆこ

百首百首初巻

長三由六花

あきふゆのうらみあはれ秋のきこえ

建長八年百首奇合

左近中将具氏

あきふゆのうらみあはれ秋のきこえ

堀河院時百首初卷

圓信

あきふゆのうらみあはれ秋のきこえ

○時雨

建保四年内裏十首奇合

順徳院

あきふゆのうらみあはれ秋のきこえ

太神宮百首奇

後鳥羽院

あきふゆのうらみあはれ秋のきこえ

千五百首奇合

建長

あきふゆのうらみあはれ秋のきこえ

冬山

為家

あきふゆのうらみあはれ秋のきこえ

家并合ふ時を
凡ゆるに
* 為相

家集歌
おのの
* 如影法師

老まふ
あけ
* 道徳

お集
凡ゆる
* 信実

冬
ゆ
* 山家

大
* 山家

○落葉

毎日

道徳

まのよふにんはたむしりてあゝまゝにんがふらふら

※ 嘉元二年百方藤原

※ 為相

よふにんはたむしりてあゝまゝにんがふらふら

※ 家集

※ 西行

流くをのまのまゝにんがふらふら

※ ありあき

※ 和歌歌詠

らるるにんがふらふら

※ 家集

※ 俊惠

夕月おひらきまのまゝにんがふらふら

※ 冬寺中

※ 船着門院大補

山よりゆきふるら大舟のまゝにんがふらふら

※ 安元二年十一月右大臣家守人守範抄藤原

あまのまゝにんがふらふら

※ 藤原基輔朝臣

あまのまゝにんがふらふら

家成二夜舞念房景

形勢を定む

もろくろくさうのりしにけふはふしきとていひしひらき

白結二年万石

小竹結

あしはよふあしはけしむらさきあまのふりきあまのふりき

頼師卿家言念房景と

前大御言師仲

あそそしあそそしあそそしあそそしあそそしあそそし

十歌百首

定家

あそそしあそそしあそそしあそそしあそそしあそそし

建長八年上宮方々々

及み隆ゆたれ

あそそしあそそしあそそしあそそしあそそしあそそし

家十石々々々々々々々々

後京極持政

あそそしあそそしあそそしあそそしあそそしあそそし

あそそしあそそしあそそしあそそしあそそしあそそし

家成

あそそしあそそしあそそしあそそしあそそしあそそし

仁治二年 百首

あ〜く〜の〜の〜を〜あ〜つ〜た 袖も〜を〜え〜たり〜

ゆ集を〜

後京極持政

よ〜し〜〜の〜から〜を〜考〜て〜な〜の〜あ〜の〜に〜や〜く〜な〜

六百番奇合 百景

定家隆

あ〜の〜あ〜ら〜ら〜と〜ふ〜れ〜ふ〜れ〜と〜ら〜ゆ〜け〜神〜を〜〜の〜あ〜も〜と〜ふ〜

曰

家房

ら〜し〜ぬ〜ら〜ぬ〜の〜も〜を〜と〜ほ〜あ〜し〜み〜ひ〜つ〜む〜ら〜う〜そ〜な〜り

建保四年内裏十方寺々

西園寺太政大臣

山〜川〜の〜も〜と〜の〜あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜

千五万首奇々

龜谷

お〜ろ〜ま〜の〜ま〜の〜お〜ろ〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜

占岐歌を〜

光俊

く〜ま〜し〜何〜も〜を〜お〜ろ〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜

為かたある者

故隆

神ろ日るの月たふらるゝ

万芳寺

蘇蓮

よきものこれの多ハおろろで言つものよめらるる

建長八年百多寺太

及九際助之氏

と何のころせうらるるをばと後らりていふらるるは

曰

信實

もろろの吐るるをばと核らりていふらるるは

事えく年十力太を臣家寺太百葉

法祐

ねのらるるをばと核らりていふらるるは

曰

仲正

らるるの吐るるをばと核らりていふらるるは

曰

資忠

もろろの吐るるをばと核らりていふらるるは

建保五年内裏守令老阿礼 正三位忠定

※
山崎のちきふやぶらふまのりさきとまのいんたのり

※ 建保四年百方守 定家

※
ふふふぬおゆのちいひのふせとねのうけ葉をふふふふ

山集 後徳寺左大臣

れやう格ううむむれをりあふふふふふふふふふふ

ふふふふふ奇人 ほん我太政大臣

※
しんのももろりれねえねもふふふふふふふふふ

○残葉

六百番守令残葉 孝臣

しんもろりれねえねもふふふふふふふふふ

口 ※ 彰昭

※
あふれにふふふふふふふふふふふふふふふ

○枯野

* 六百首奇々枯野

あつたけのけしきもなほつらむらさき
* 家隆

曰

有家

いづれかしのけしきもなほつらむらさき
* 家隆

曰

有家

のこりぬてふあそびのこりぬてふあそび
* 家隆

百首奇々

明徳院

あつたけのけしきもなほつらむらさき
* 家隆

老を老むる

* 忠良

うらりてあそびのこりぬてふあそび
* 家隆

六帖乳

* 任文

あつたけのけしきもなほつらむらさき
* 家隆

○霜

建保三年名所百首奇々

明徳院

きしりし松の葉とてくゆりておとこもさきくはれぬる

白嘉元年 毎日守中

考家

しりしれふのほの葉のふりてゆりておとこもさきくはれぬる

文永元年 毎日守中 十一日

同

けし文あふかく雲のふりておとこもさきくはれぬる

と收歌雲

光俊銅花

谷しりし松の葉とてくゆりておとこもさきくはれぬる

建仁元年 守中 各 氣吹守中 俊成

おとこもさきくはれぬる

○守中

家集守中

西行

おとこもさきくはれぬる

永文元年 十一日 守中

おとこもさきくはれぬる

百首抄

後鳥羽院

雪の如く花をよみしは中へ舞の風をよみしは春の如く花をよみしは

と帖紙

安土内之丸

つらき花をよみしは中へ舞の風をよみしは春の如く花をよみしは

建仁三年新宮寺合流次定家 花光

花をよみしは中へ舞の風をよみしは春の如く花をよみしは

文治七年五社百首

俊成

花をよみしは中へ舞の風をよみしは春の如く花をよみしは

と帖紙

孝俊朝臣

花をよみしは中へ舞の風をよみしは春の如く花をよみしは

正治二年一草

隆房

花をよみしは中へ舞の風をよみしは春の如く花をよみしは

家集

佐頼

花をよみしは中へ舞の風をよみしは春の如く花をよみしは

日
あまの原わね^{*}一^{*}あまの原わね^{*}あまの原わね^{*}あまの原わね^{*}

近世の歴史

家集月名定ま

前氏詩の雑有

あまの原わね^{*}あまの原わね^{*}あまの原わね^{*}あまの原わね^{*}

建長五年毎日の中一冬月

為家

あまの原わね^{*}あまの原わね^{*}あまの原わね^{*}あまの原わね^{*}

ふゆ歌

日

あまの原わね^{*}あまの原わね^{*}あまの原わね^{*}あまの原わね^{*}

日

信玄

あまの原わね^{*}あまの原わね^{*}あまの原わね^{*}あまの原わね^{*}

あまの原わね^{*}あまの原わね^{*}あまの原わね^{*}あまの原わね^{*}

建礼門院右京大夫

あまの原わね^{*}あまの原わね^{*}あまの原わね^{*}あまの原わね^{*}

あまの原わね^{*}

あまの原わね^{*}

あまのり田れね^{*}...^{*}
久安二年三月改師...^{*}

○冬雨

弘長二年...^{*}...^{*}
承久三年...^{*}

予...^{*}...^{*}

あ...^{*}...^{*}

○食

六百番奇...^{*}...^{*}

日

有夜 李経

神皇正統記

推僧云公朝

~~~~~

家集

家隆

~~~~~

家集

俊頼

~~~~~

百首

家令法師

~~~~~

中朝

公朝

~~~~~

貞應三年

為家

~~~~~

家集

仲正

~~~~~



※ 集松造千鳥

法京松橋の

あはれぬ松造千鳥のうらみはなほあはれぬ松橋のうらみ

○ 正治二年百方

※ 寺多徳入道守家

あはれぬ寺多徳入道のうらみはなほあはれぬ守家のうらみ

建長八年百方守家

藤原公純小宰相

あはれぬ藤原公純のうらみはなほあはれぬ小宰相のうらみ

千五方守家

※ 今川内之長

あはれぬ今川内之長のうらみはなほあはれぬ守家のうらみ

建長八年百方守家

※ 後醍醐内之長

あはれぬ後醍醐内之長のうらみはなほあはれぬ守家のうらみ

今守中

今守院長

あはれぬ今守院長のうらみはなほあはれぬ守家のうらみ

正治二年百方

守家

あはれぬ守家のうらみはなほあはれぬ守家のうらみ

家集

松よりせよるるなほなほ...  
\* 俊頼

○水鳥

遠久通千能百る

定成

ら...の...  
\* 俊成

遠懐百る

俊成

ゆ...  
\*\* 俊成

巾集中

俊成

よ...袖...  
\* 俊成

千...

俊成

あ...  
\* 俊成

曰

\*\* 第三の...

そ...  
\* 俊成

家集 水鳥

仲成

~~~~~\*

百首中

寂蓮

~~~~~\*

仁安二年寺林死寺人山島

友原憲成

~~~~~\*

嘉應二年七月法住寺人山島近則

隆房

~~~~~\*

天仁二年二月比叡山寺合鑑

~~~~~

~~~~~\*

仁安二年寺林死寺人山島

頼政

~~~~~\*

~~~~~

~~~~~

~~~~~\*

嘉應元年五月觀智法眼房寺合山島

~~~~~


あはれなる御心にて行なはれし御事なほ御心にて行なはれし御事なり

存多院入道之宗親と云ふ事なる
宗達

あはれなる御心にて行なはれし御事なほ御心にて行なはれし御事なり

守之親守 敬神喻禮在徑是
定家

あはれなる御心にて行なはれし御事なほ御心にて行なはれし御事なり

喜多院親と云ふ事なる
日

あはれなる御心にて行なはれし御事なほ御心にて行なはれし御事なり

柿本親供
後九條内直

あはれなる御心にて行なはれし御事なほ御心にて行なはれし御事なり

真定御家奇合水鳥
宗達

あはれなる御心にて行なはれし御事なほ御心にて行なはれし御事なり

堀川院少時百首
仲實

あはれなる御心にて行なはれし御事なほ御心にて行なはれし御事なり

正治二年百首
源師光

家集冬奇中

家隆

しらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊

嘉元二年廿方

為家

しらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊

堀河院少時百方氷

俊賴

しらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊

洞院持政家百首

家長朝臣

しらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊

同氷

日

しらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊

二長百首奇

後多持政

しらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊

与らる奇各

日

しらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊のしらけぬ山＊

拾遺卷五 丁才注

※ 南北百首 今 山 家 ※

後 亦 極 焉 故

※ 集 雪 中 送 令 曰

弘 安 元 年 百 首 行 家

石 房 如 之 乃 奇 今 月 前 雪 忠 良

匡 房

大 法 六 年 五 社 而 著 後 成

法 法 惟 情 与 閑 白 寂 而 乃 書 曰

※ 大 法 六 年 五 社 而 著 後 成

光明奉持師家百首 林雪 慈德

建仁元年老若乃十首 寺金 日

百首 雪朝 帆笠 慈德

建保五年内重子合寺 兵衛内侍

百首 寺中 之家

洞院持師家百首 修成女

百首 妙心 為家

あまのついでに神代をうらむるに
隆信

○神楽

堀河院内御百首神楽

権大御言公安

あまのついでに神代をうらむるに
隆信

石清水三宮守人神楽

小侍松

あまのついでに神代をうらむるに
隆信

あまのついでに神代をうらむるに

為家

あまのついでに神代をうらむるに
隆信

天仁二年十一月御重なる家言合神楽

有宗保俊朝臣

あまのついでに神代をうらむるに
隆信

貞應三年百首

為家

あまのついでに神代をうらむるに
隆信

家集神楽

匡房

よきことゆへに※しるしをたてしむるは※冬火にけりて※さきさきとせり※

任古社百首抄

冬結

任古の冬火のしるしをたてしむるは※冬火にけりて※さきさきとせり※

千載万葉集

冬結

しるしをたてしむるは※冬火にけりて※さきさきとせり※

永承四年十一月庚申夜湯子田親を家言合神也

讀岐

年ふれは※しるしをたてしむるは※冬火にけりて※さきさきとせり※

六帖記并云

冬家

冬火のしるしをたてしむるは※冬火にけりて※さきさきとせり※

三嶋社之冬火のしるしをたてしむるは※

梅僧正公朝

冬火のしるしをたてしむるは※冬火にけりて※さきさきとせり※

○冬梅

六帖記

冬家内大臣

日くすまをわがきしむに...
家集冬寺中
家隆

○山宮電

堀河院あけ百方山宮電
大帥老師頼
冬寺中
山宮電

ほくきぬのちり...
冬寺中
乙川院小寺相

貞意之身百方遠近茶電
為友
冬寺中

○佛名

六百考寺全佛名
後帝徳徳
冬寺中

曰

道録

とくくはる佛のうらみもあはれなりけり
あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり
あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり
あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり

○爐火

未懷百首 押火

あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり
あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり
あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり
あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり

俊成

正治二年百首

あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり
あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり
あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり
あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり

成子知録也

○歳暮

喜多院親王友五十首

あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり
あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり
あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり
あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり

有家

千五万言令

保季

あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり
あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり
あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり
あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり

文治六年一廿所入内中存凡兼著

三系入道在太臣

あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり
あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり
あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり
あはれなりけりあはれなりけりあはれなりけり

治承二年百首

俊成

孔子曰

子曰*
子曰

斯道文庫

